

# ホシガレイ飼育初期生残率の大幅向上

福島県水産資源研究所 種苗研究部

部門名 水産業－種苗生産（基礎）－種苗生産、その他カレイ類

担当者 佐々木つかさ・榎本昌宏・實松敦之・森口隆大・菊地正信

## I 新技術の解説

### 1 要旨

福島県では、漁業者から種苗放流の要望が高いホシガレイの種苗生産技術の開発に取り組んできたが、初期の生残率が低いことが課題であった。そこで、生産が比較的安定している国立研究開発法人水産研究・教育機構東北区水産研究所宮古庁舎の生産技術について、本県における飼育環境（照度、飼育水温等）への適応を試みた。

その結果、初期生残率を従来平均の 6.1% の 9.8 倍である 59.8% とし、30 トン水槽 3 面に収容した仔魚 39.1 万尾から、23 万尾の着底稚魚を得ることができた。

- (1) 仔魚が開口（6～7 日齢）する直前から 10 日齢まで、飼育水槽に 24 時間照明を行うことで照度を確保（276lx～545lx）し、摂餌可能時間を延長した。
- (2) ワムシ給餌期間中は、飼育水槽の注水を止めて飼育し、ワムシの密度を高く（5～10 個体/ml）維持した。
- (3) 平成 30 年度に実施した 3 回の飼育試験におけるふ化仔魚（ステージ A）から着底稚魚（ステージ I）までの生残率は 45.1%～77.0% で、平均が  $59.8 \pm 13.1\%$  であった。平成 19～21 年度に水産種苗研究所で実施された 74 回の飼育試験における生残率は 0.0%～43.9%、平均が  $6.1 \pm 9.1\%$  であり、平成 30 年度の試験は、従前の結果と比較して安定して高い生残率を示した。

### 2 期待される効果

- (1) ホシガレイ稚魚の大量生産・大量放流が可能となり、事業化に向けた放流技術の検証が進む。
- (2) 生残率が安定することで、飼育試験結果の信頼性が上昇する。

### 3 適用範囲

- (1) 種苗生産に係る研究者、種苗生産機関

### 4 普及上の留意点

- (1) 特になし

